

# 災害に強い千葉県をつくる

東日本大震災から今年の3月11日で10年。県内でも大きな被害があり、堤防のかさ上げや津波避難訓練など、さまざまな防災対策を進めてきました。また、おととしの房総半島台風(台風15号)や東日本台風(台風19号)、10月豪雨などでは、長期停電や洪水による浸水、土砂災害などが発生。県では、被災地の復旧・復興に向けた支援を進めるとともに、防災対策のさらなる充実を図り、「災害に強い千葉県づくり」に取り組んでいます。

3月6日22時～、チバテレで震災関連の特別番組を放送。3月9日から県ホームページでも配信します▲



問い合わせ

県防災政策課  
TEL043(223)2163



## 津波に負けない



標高6mを目安に堤防をかさ上げ

東日本大震災では、九十九里沿岸で津波による大きな被害が発生したことから、海岸や河川で堤防かさ上げなどの対策工事を行ってきました。特に被害が甚大だった旭市の飯岡海岸では、津波が堤防を超えた場合でも壊れにくい構造の堤防整備を行うなど、さらなる災害に備えた機能強化にも取り組んでいます。また、海岸の保安林が津波被害の軽減につながったことから、潮風による塩害などにも強く、砂浜での生育に適したクロマツなどの植栽も進めています。九十九里沿岸の市町村では、14カ所に津波避難タワーを建設。県では市町村と連携して、浸水が予想される地域の住民が実際に避難を行う津波避難訓練などにも取り組んでいます。

## 津波から身を守ろう

海岸の近くで強く揺れた\*・長時間揺れた津波警報などが発表されたら \*震度4程度以上



急いで海岸から離れ  
なるべく高い、安全な場所へ避難!



原則、徒歩で避難します。徒歩での避難が難しく、車での避難が必要なときは、市町村の避難計画に従い安全に避難しましょう。津波は繰り返し来襲し、遠方で発生した地震により大津波が押し寄せる場合もあります。警報が解除されるまで油断せず、避難を続けましょう。

## 道路の防災対策

おととしは、大雨や暴風による道路のり面の崩落や倒木などで、多くの道路が通行止めになりました。このため、災害時でも通行を確保し、応急対策をスムーズに行えるよう、緊急輸送道路の整備や道路のり面对策、橋りょうの耐震補強、電線類の地中化など、災害に強い道づくりを進めています。



道路のり面(道路脇の斜面)を補強

## 停電からの早期復旧

おととしの災害で大きな問題となった長期停電対策として、東京電力パワーグリッド(株)と「災害時における停電復旧及び停電の未然防止の連携等に関する基本協定」を締結。電力復旧作業を妨げる道路上の倒木除去への対応や、連絡体制の構築など、連携して取り組みを進めています。



協定締結の様子

## 治水対策の充実

おととしの10月豪雨により甚大な被害が生じた一宮川流域では、令和11年度末までに、関係市町村と連携した「一宮川流域浸水対策特別緊急事業」を実施し、同規模の降雨に対して、家屋や主要施設の浸水被害ゼロを目指します。中流域では、洪水を防ぐため川幅を広げたり、調節池を増設するなど整備を進めています。



被災当時の茂原市内

## 行政の災害対応力

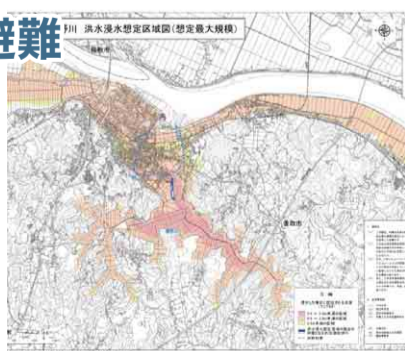
おととしの災害の経験を踏まえ、配備基準や、被害情報の収集体制を見直し、初動対応の迅速化を図りました。また、災害時に人的・物的支援がどの程度必要かなどを把握するため、県から市町村に派遣する情報連絡員を事前に指定し、早期に情報収集できる体制を整備しています。



災害対策本部事務局図上訓練

## 洪水からの迅速な避難

氾濫した際に被害の大きい「水位周知河川」とその支川、合わせて120河川について浸水想定区域図を公表しており、この他の河川についても、今後、浸水想定図を作成します。これらは、避難に必要なハザードマップの基本となるもので、県では、関係市町村にデータを提供し、作成方法などの助言を行っています。



浸水想定区域図

## オール千葉で防災力向上

災害の被害を減らすためには、県や市町村が行う「公助」はもとより、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで守る「共助」の取り組みが大切です。県では、国や市町村と連携した大規模な訓練や住民参加型の訓練など、さまざまな訓練を実施するとともに、地域の防災活動も積極的に支援しています。



ボランティアセンター運営訓練

ハザードマップは各市町村で配布しています。また、千葉県防災ポータルサイトでも、最新の災害情報などさまざまな防災情報を提供しています。

防災ポータル 千葉 検索



防災についての知識を、子どもにも分かりやすいアニメ動画で紹介しています。家族みんなで防災力を高めましょう。

防災動画 千葉 検索

